

令和4年度事業（経営発達支援計画4年目事業）報告書

愛甲商工会

本報告書は、経営発達支援計画に基づき、愛甲商工会が令和4年度に実施した事業の実績、評価及び見直し結果等についてまとめたものである。

なお、評価及び見直しにあたっては、「愛甲商工会 経営発達支援計画検討委員会：外部評価委員会」（外部有識者）を活用し、幅広い意見を取り入れて審議を行った。

## 1 目的

令和4年度 経営発達支援計画の年度目標（令和3年度事業の外部評価委員会の助言踏まえ）に対する実績報告を踏まえ、目標達成事業の効果、未達成事業の理由や原因について評価・検証し、計画の見直しや実施策を審議する。審議結果（本報告書）を商工会の理事会等へ報告し、次年度以降の事業に反映させていく。

## 2 委員会

役	氏名	所属
委員長	荒井 竜哉	IBS コンサルティング
委員	奥村 友美子	日本政策金融公庫 厚木支店 国民生活事業
委員	三輪 茂樹	かながわ中小企業成長支援ステーション
委員	齋藤 伸介	愛川町 商工観光課
委員	村上 貴史	清川村 産業観光課

## 3 事務局

No.	氏名	所属
1	久保 正英	KUBO 中小企業診断士 事務所
2	飯山 良弘	愛甲商工会 事務局長
3	和田 直己	愛甲商工会 経営指導員

## 4 開催日時

令和5年2月24日（金）10時～12時

次ページより

## 1. 地域の経済動向調査に関すること

### 1) 目的

地域の景況感等、業種毎の経営や概況を、可能な限り把握し、個社支援や指導に役立てることである。

### 2) 実施した内容

#### ・地域経済動向調査の実施

: 別添 2022年実施「愛甲商工会・個社経営概況並びに地域経済動向調査」報告書

愛甲商工会管内事業者を対象に郵送にてアンケート調査（調査書は別添①参照）を実施し、この結果を基に経済動向の把握に活用した。

業種名	有効回答者数	業種名	有効回答者数
製造業	18	サービス業	27
卸売業	2	飲食業	6
小売業	14	農林水産業	2
建設土木業	13	その他	5
不動産業	5	<u>合計</u>	<u>92</u>

(地域経済動向調査 回答事業者の業種)

#### ・個社ヒアリングによる経済動向の把握

種々の専門家派遣の場や、窓口相談の場を通じて、個社の経営状況の把握を「ヒアリング」を通じて実施してきた。年間延べ38件になる。その情報と前述の「地域経済動向調査」の結果と突き合わせ、経営指導員や職員個々は、日々の支援の前提条件としている。

#### ・地域内金融機関向けアンケートの実施

: 別添 R4 金融機関との意見交換記録

管内事業者の景況感や業績、抱える課題を少しでも実感し、個社支援に役立てるため、金融機関の顧客先の状況把握に繋がる調査を実施した。また調査を依頼する場を通じて、融資担当者等が実感する個社の業績や景況感について、ヒアリングした。

名称
日本政策金融公庫厚木支店

#### ・管内事業者への公表と共有（経済動向調査の活用）

調査結果を分かり易く解説し、管内経済動向として地域小規模事業者がいつでも活用できるように、報告書として取りまとめ、当商工会ホームページに掲載した。

また経営指導員等が、巡回指導や窓口相談の際に、指導基礎知識として活用した。

ホームページ URL : <http://www.aikou-shokokai.jp/>

### 3) 目標と実績

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
ヒアリング訪問件数	社	40	38
前中小企業景況調査同様の景況調査	社	80以上	92
地域内金融機関意見交換件数	件	4	2
地域内金融機関アンケート調査件数	件	2	2
HP掲載回数	回	1	1
広報(年4回発行)	回	1	0

### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性				●	
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

- ・経済動向調査は、結果活用の出来次第で、取組の有効性が決まると言っても過言では無い。どのように、小規模事業者支援に活かしていくのかを念頭に、取組を進めてほしい。
- ・金融機関が一部、協力的な姿勢では無いとのことで、関係性に課題はあるが、必要情報の収集は実現できているので、今後の取組においても、現状維持で良いと判断する。



6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
A	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

- ・経済動向調査の回答者数を少しでも増加させる努力を行う。
- ・経済動向調査結果と決算情報を可能な限り統計処理することで、愛甲商工会管内の事業者の経営特性の把握に努めていく。
- ・日常の現場支援の中で、個社の経営状況を把握する手法の検討と、その把握した情報を踏まえた「管内景況感」等を分析する手法について、検討を深めていく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和5年目標 (評価委員会より)
ヒアリング訪問件数	社	40
前中小企業景況調査同様の景況調査	社	80以上
地域内金融機関意見交換件数	件	2
地域内金融機関アンケート調査件数	件	
HP掲載回数	回	1
広報(年4回発行)	回	1

## 2. 経営状況の分析に関すること

### 1) 目的

個社が、業績や経営状態を正しく把握し、必要なアクション（コスト低減、売上獲得、経営資源の効率性等）が実践できる管内事業者を増やしていくことである。

なお、実施目的としては、次項の「事業計画策定支援に関すること」「事業計画実施支援に関すること」への活用を意図して実施する。

### 2) 実施した内容

- ・記帳指導を通じた経営状況の分析並びに助言

: 別添 R04 記帳機械化利用事業所

上記の別添のとおり、12社に対して分析並びに助言を行った。

- ・経営ヒアリングシート調査

本調査は、昨年と同様、前述の地域経済動向調査内にて実施した。

- ・個社が経営改善に活用できる調査結果のアウトプット手法開発

今回の地域経済動向調報告書内で、統計処理（多変量解析）することで、新たな手法の開発を試みている。

### 3) 目標と実績

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
記帳機械化対象者巡回訪問件数	件	10	12
経営ヒアリングシート調査件数	件	80以上	92
個社が経営改善に活用できる調査結果のアウトプット手法開発	回	1	1

### 4) 実績に対する検討委員会の評価（5段階評価）

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性				●	
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

・分析支援の個社数の量については、現状として多いのか少ないのか、どのような見解か。

事務局：量ではなく、質を充実させるということで行っている。量を求めるようなことは当面行わない。

三輪 茂樹：

・経営ヒアリングシートの結果の解釈や利用について、考えを教えてほしい。

事務局：前項の地域経済動向調査と同じく、調査協力していただいた個社に、どのようにしてフィードバックし、活用を促していくかが重要だと考えている。

#### 5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input checked="" type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                      )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

#### 6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
<b>A</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

- ・支援対象個社以外の管内の事業者が、「ぜひ取組んでみたい」と思える「良い事例」の公表と共有の仕方を検討して進めていく。
- ・感染症の拡大、さらには with コロナにおいて、疲弊しており、重点的に支援しなければならない個社を商工会内で議論した上で、支援が有効になるよう、取り組んでいく所存である。
- ・新たに支援する個社を拡げる一方、支援を卒業する個社の状況とは、どのようなものなのかを検討していく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和5年目標 (評価委員会より)
記帳機械化対象者巡回訪問件数	件	10
経営ヒアリングシート調査件数	件	80以上
個社が経営改善に活用できる調査結果のアウトプット手法開発	回	1

### 3. 事業計画策定支援に関すること

#### 1) 目的

事業計画策定の重要性や意義を伝え、事業計画を策定しようとする管内事業者を増やしていくことである。

#### 2) 実施した内容

- ・事業計画策定セミナーの実施(兼 副業をテーマ)

: 別添 事業計画策定セミナーチラシ

計画策定の意義や、策定の仕方や記載内容を助言するため、集合セミナーを実施した。特徴としては、域外の需要開拓に力点を置くことで、根本的な業績改善が叶うことを、理解していただける内容とした。

開催日：2022年12月5日(月) 参加者(社)数：5社(名)(講師 久保正英)

- ・副業セミナーについて

本年は実施していない。

- ・セミナー開催周知ならびに計画策定支援実施の旨の周知

計画策定セミナーの開催の周知、さらには既存事業者の第2創業や、新たに創業(起業)される方の計画策定を支援する旨を伝えるため、事業計画策定セミナーは、2022年11月の広報誌「商工会ニュースあいこう」にて、各々愛川町内9,800世帯に配布した。また、会員に対してチラシ900部を直送した。後日、従業員がいる又は、地域外から顧客を獲得して欲しい100社へ直送した。合わせて当商工会ホームページにも掲載した。

- ・事業計画策定支援の実施

: 別添 R4 事業計画作成指導実績表

上記の別添のとおり、販路開拓の取組みを強化する意志のある個社を対象に、小規模事業者持続化補助金の申請支援を通じて、計画策定を支援した。また、既述の計画策定セミナーに参加した個社を対象に、伴走でサポートしており、必要に応じて計画策定へと駒を進める支援を行っていく。

### 3) 目標と実績

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
事業計画策定事業者数	社	6	6
事業計画策定支援周知数	部	11,000	10,800
副業の始め方セミナーの開催	回	1	1
副業の始め方セミナーの参加者数	名	10	5

### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性				●	
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性				●	

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

・セミナー開催の周知の部分において、目標の参加人数が未達である。何かしらの課題があるのではないかな。

事務局：地域の傾向として、以前から、このようなセミナーへの集客活動に苦戦している。今後とも、随時、工夫して取り組んでいきたい。

奥村 友美子：

・掛けるお金、獲得する売上をしっかりと練って計画策定をしている個社が多いことを、日常のかかわりで実感していて、好感がもてる。

三輪 茂樹：

・事務局からの報告に「事業計画策定支援における伴走支援」とあるが、その内容について



・事業計画策定において、業界の専門性等の知見が必要な際には、種々の専門家派遣制度等を利用して、迅速な解決を図っていく。

2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和5年目標 (評価委員会より)
事業計画策定事業者数	社	6
事業計画策定支援周知数	部	11,000
副業の始め方セミナーの開催	回	1
副業の始め方セミナーの参加者数	名	10

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

##### 1) 目的

事業計画を策定した事業者に寄り添い、PDCA サイクルを回す事業者の実現性や実効性を支援していくことである。

##### 2) 実施した内容

- ・定期巡回による既存事業者のアフターフォローの実施

: 別添 定期巡回フォローアップ表 (7 件)

事業計画策定を過去に実施した個社を対象に、都度巡回訪問し、計画の進捗状況の確認を行った。また、必要に応じて、計画進行に役立つ補助金や助成金の周知にも取り組んだ。

事業計画の進捗状況が芳しくない、あるいは事業計画について経営実態とのズレが生じてしまったなどの場合には、辛抱強く個社に寄り添い、計画の修正や変更等、実現性が高まるようサポートしている。経営指導員の支援で、解決が難しい専門的な内容については、各種専門家派遣制度を活用し、専門家と連携を取りながらサポートしている。

項目	指導の方向性
売上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存取引先受注減：既存新規または新市場開拓</li> <li>・新規取引先開拓遅れ：社長のモチベーションの維持をサポート、社員の士気の向上をサポート、営業進捗状況の確認等</li> </ul>
売上原価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正人件費の確認並びに生産性の助言</li> <li>・原料の仕入先交渉進捗や代替原料の可能性等の助言</li> <li>・製造時原料ロスの確認等</li> </ul>
販売管理費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上に繋がる費用か否かの確認により、繋がらない場合は削減の助言</li> </ul>

(助言の方向性)

- ・副業セミナー参加者のフォローアップ

次々項の「新たな需要開拓に寄与する事業」にて包含して実施している。

##### 3) 目標と実績

支援内容		令和 4 年目標 (評価委員会より)	令和 4 年実績
定期巡回フォローアップ回数	回	4	7
定期巡回フォローアップ件数	社	10	2
副業の始め方セミナーの参加者 フォローアップ	名	10	2

#### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

・個社毎の訪問頻度に、差があるように見受けるが、その差は何故か。

事務局：経営指導員としては、伴走の意志があるが、先方が「自ら問題無く進めれる」ということなので、訪問を控えていることがある。

三輪 茂樹：

・事業計画を適時見直し、ブラッシュアップすることが重要だと考える。個社の支援の場において、機動的に「改善や見直し」にかかわっていけるようフォローアップを期待したい。

#### 5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                    )
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
<b>B</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

次々項の「新たな需要開拓に寄与」と一体で取り組むことで、売上差異を充足する支援を中心に、計画差異の解消を図っていく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和5年目標 (評価委員会より)
定期巡回フォローアップ回数	回	4
定期巡回フォローアップ件数	社	10
副業の始め方セミナーの参加者 フォローアップ	名	10

## 5. 需要動向調査に関すること

### 1) 目的

個社が、商品化や販路開拓の取り組みを実施する際、有益な情報が提供できるよう、当会がリーダーシップを発揮し必要情報を収集していくことである。

### 2) 実施した内容

#### ・個社の需要開拓に必要な調査の実施

下表の業種を1社ずつピックアップし、事業者が需要開拓の取組みで「知りたい」情報を提供する為、個社のための「調査事業」を行った。主な概要も表中に記載する。

動画制作業	Web 集客のための「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成、SNS の活用における AI アルゴリズム。
飲食業 (創業予定)	web 集客のための SNS の AI アルゴリズム、「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成
宿泊業	事業再構築による新事業の受容性、新事業のインターネットにおける「サジェストワード」の方向性の分析
製造業	生産財から消費財への事業領域シフトにおける受容性、販路開拓イメージ業種の受容性
整体業	新規顧客獲得のためのインターネットにおける「サジェストワード」の方向性の分析、チラシ利用による集客手順の確認
小売業	中古バイクの用途別の受容性、中古バイクの購買導線の検討、新規顧客獲得のためのインターネットにおける「サジェストワード」の方向性の分析

#### ・個社の需要開拓に資する助言の実施

前述の調査結果を踏まえ、計6社に「需要開拓」に繋がるよう、継続して支援している。

### 3) 目標と実績

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
個社の需要開拓に必要な調査の実施	件	6	6
個社の調査結果を踏まえた需要開拓助言や指導	社	6	6

#### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

・需要動向調査における支援が、ITの取組が目立つが、何故このような偏りがある状況になったか。

事務局：支援先の個社が域外から顧客を送客するために、インターネットの取組が必須になることが多いためである。意図したものではなく、結果的な側面大きい。

三輪 茂樹：

・そもそも商品やサービスの価値向上があつての集客の側面がある。PRと商品（やサービス）のブラッシュアップを両面で進めてほしい。

齋藤 伸介：

・SNS等も含め、集客の手法を個社に学ばせたいとは考えている為、町としては商工会と もっと連携して取組を進めたい。

村上 貴史：

・行政としてはSNSを使えない個社を対象に、何かしらのプラットフォームを構築したいと考えている。その際、商工会にも何かしらの連携を御願いたい。



## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### 1) 目的

個社に販売機会等を創出し、少しでも需要の開拓に繋がるサポートが出来る体制を構築していくことである。

### 2) 実施した内容

#### ・愛川にぎわいマルシェ開催

：別添 R04 マルシェ) 月別売上, 来場者数, 年間報告一覧表

地域内の小規模企業者は大型店やフランチャイズチェーン等の影響や消費低迷等、大変厳しい経営環境に個社は置かれている。このような状況を踏まえ、あいちゃん商店会、愛川町観光協会、城山商工会と連携し、個社に販売機会を提供するため、実施している。

#### ・かながわ商工会まつりへの参加

神奈川県商工会連合会と連携して開催する「かながわ商工会まつり」で展示・商談会への出展を支援した。

出店事業所数：2 件、 売上実績(計)：97,190 円

#### ・より個社に寄り添った需要開拓の取組み支援

前項の需要動向調査事業と同期し、実施した。

動画制作業	Web 集客の助言
飲食業 (創業予定)	web 集客の助言、チラシを活用したポスティング等の助言
宿泊業	web 集客の助言、チラシを活用したポスティング等の助言
製造業	web 集客の助言、チラシを活用したポスティング等の助言
整体業	web 集客の助言、チラシを活用したポスティング等の助言
小売業	web 集客の助言

#### ・ホームページ (HP) 作成支援

前項の需要動向調査事業と同期し、実施した。

支援個社数 1 社

#### ・備考

ニッポン全国物産展出展者数	1 件	令和4年 11/18 34,300 円 11/19 62,500 円 11/20 82,750 円
ニッポン全国物産展売上合計額	179,550 円	計3日間出展 服部牧場

### 3) 目標と実績

支援内容	令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
愛川にぎわいマルシェ(朝市)年間開催回数	9回	8回
同上 出店者数(1回あたり)	24社	17社
同上 年間来場者数	4100人	2485人
同上 全出店者の年間売上合計額(最大9回出店)	360万円	455万円
かながわ商工会まつり出店者数	1社	2社
同上 売上合計額(年1回)	1万円	97190円
HP作成支援事業者数	2社	1社
個社に寄り添った需要開拓支援(IT支援含む)	5社	6社

### 4) 実績に対する検討委員会の評価(5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

- ・イベントの目標と実績の差異について理由はあるか。

事務局：感染症の影響を、まだ不安視する個社があり、出店を見合わせている個社が多い。また来場する消費者においても同様で、不安視して、来場を控える方々も多い。

・三輪 茂樹：

- ・にぎわいマルシェで来場者数の目減り傾向は、感染症の影響で理解するが、ウイズコロ



可能な限り実需につながるようサポートしていく。経営指導員等で手に負えない課題については、積極的に専門家の活用を進めていく。

2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容	令和5年目標 (評価委員会より)
愛川にぎわいマルシェ(朝市)年間開催回数	9回
同上 出店者数(1回あたり)	24社
同上 年間来場者数	4100人
同上 全出店者の年間売上合計額(最大9回出店)	360万円
かながわ商工会まつり出店者数	1社
同上 売上合計額(年1回)	1万円
HP作成支援事業者数	2社
個社に寄り添った需要開拓支援(IT支援含む)	5社

## 7. 地域経済の活性化に資する取組みに関すること

### 1) 目的

商工会は、地域の商工業の中核的支援拠点として体制を強化していき、地域経済の活性化に貢献できる「意識の高い事業者」を増やしていくサポートをしていくことである。

### 2) 実施した内容

- ・愛川にぎわいマルシェの企画並びに開催

地域内の小規模企業者は大型店やフランチャイズチェーン等の影響や消費低迷等大変厳しい経営環境に置かれている。このような状況を踏まえ、商工会がリーダーシップを発揮し、愛川町商店連合会、愛川町観光協会、城山商工会と連携し、当該イベントを企画、開催した。

詳細は、前項「6 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること」を参照いただきたい。

### 3) 目標と実績

支援内容	令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
地域活性化委員会 (愛川にぎわいマルシェ委員会へ統合)	3回	3回
朝市(愛川にぎわいマルシェ)開催回数	9回	8回
朝市出展者数(1回あたり)	24社	17社
朝市来場者数(年間)	4,100人	2,485人

### 4) 実績に対する検討委員会の評価(5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？



2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容	令和5年目標 (評価委員会より)
地域活性化委員会 (愛川にぎわいマルシェ委員会へ統合)	3回
朝市(にぎわいマルシェ)開催回数	9回
朝市出展者数(1回あたり)	24社
朝市来場者数(年間)	4,100人

## 8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

### 1) 目的

支援に活用できる知識やノウハウを他支援機関から積極的に吸収し学ぶことである。

### 2) 実施した内容

#### ・研修機会への積極的参加

: 別添 参加した神奈川県商工会連合会 主催研修会の復命書

: 別添 参加した中小企業大学校 企画研修会の復命書

神奈川県商工会連合会が主催する研修会や、中小企業大学校の企画する研修会に、積極的に参加し、経営指導員が個社支援の知恵や知識、ノウハウを習得することを心掛けた。

神奈川県商工会連合会 主催研修会参加者

: 井上経営支援職員 1回 和田指導員 2回

中小企業大学校 企画研修会参加者

: 諏訪部指導員 1回、深澤指導員 1回、和田指導員 1回

#### ・金融機関等の連携

国の金融機関である日本政策金融公庫主催のマル経協議会等に参加し、必要な情報収集や意見交換を実施した。

#### ・労働基準監督署との連携

労働基準監督署の行う労務関連団体連絡会議において、各労務系団体、社会保険労務士などと、国の労働行政施策・法律・労災現状などの情報収集を行った。

#### ・町行政機関との意見情報交換会

行政の産業政策等と歩調を合わせるため、重視している場である。滞りなく実施した。

### 3) 目標と実績

支援内容	令和4年目標 (評価委員会より)	令和4年実績
全国連・県連等の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人	3人
同上 4人×年間参加回数	16回	3回
中小企業大学校の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人	3人
同上 4人×年間参加回数	4回	3回
日本政策金融公庫との情報交換・勉強会延べ参加者数	2人	2人
同上 年間参加回数	2回	2回
労働基準監督署 労務関連意見交換会延べ参加者数	3人	2人
同上 年間参加回数	3回	2回
金融機関との懇談会延べ参加者数	4人	2人
同上 年間開催回数	2回	2回
町行政機関との意見情報交換会延べ参加者数	30人	9人
同上 年間開催回数	3回	1回

### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性				●	

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？



2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容	令和5年目標 (評価委員会より)
全国連・県連等の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人
同上 4人×年間参加回数	16回
中小企業大学校の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人
同上 4人×年間参加回数	4回
日本政策金融公庫との情報交換・勉強会延べ参加者数	2人
同上 年間参加回数	2回
労働基準監督署 労務関連意見交換会延べ参加者数	3人
同上 年間参加回数	3回
金融機関との懇談会延べ参加者数	4人
同上 年間開催回数	2回
町行政機関との意見情報交換会延べ参加者数	30人
同上 年間開催回数	3回

## 9. 経営指導員等の資質向上に関すること

### 1) 目的

経営指導員や職員等の個社支援や、地域へ関わる能力や質を高めるため、必要な学びや経験を積極的に受け入れていくことである。

### 2) 実施した内容

#### ・資質向上に繋がる学びの場への積極的参加

神奈川県商工会連合会が主催する「基本能力研修会」、中小企業基盤整備機構が実施する「小規模事業者支援研修会」、さらには中小企業大学校の主催する「中小企業支援担当者等研修会」の専門コース等である。

神奈川県商工会連合会 主催研修会参加者

：井上経営支援職員 1回 和田指導員 2回

中小企業大学校 企画研修会参加者

：諏訪部指導員 1回、深澤指導員 1回、和田指導員 1回

#### ・OJTによる若手指導員の支援能力指導

若手指導員や経営支援担当職員については、ベテラン指導員と同席し、小規模事業者の相談・指導を体験する機会を増やした。助言内容や情報収集の方法を学ぶことができた。

対象になった若手指導員名：諏訪部 智、井上 雅士

実施日：適時

### 3) 目標と実績

経営発達支援計画にて定量的目標は未設定

### 4) 実績に対する検討委員会の評価（5段階評価）

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					●
必要性					●
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					●
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					●

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

- 必要性：目標に添っているか？必要か？
- 妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？
- 効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

荒井 竜哉：

・「どのような資質を向上させたいのか」を踏まえて、参加する研修等の内容を吟味してほしい。

三輪 茂樹：

・他の支援期間のノウハウやナレッジを吸収し、愛川町や清川村に適した「支援の在り方」(資質の習得)を深めてはどうか。

#### 5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                    )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

#### 6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断(評価)

判定	内容
<b>A</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

#### 7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

##### 1) 次年度に向けた取組の方向性

- ・研修や学びの場で、参加者が学んだ内容を、他の職員や指導員に共有する場を設けていく。また、傾聴した他の経営指導員や職員が、実際の支援の場等で「使える」ような共有の仕方の工夫を模索していく。
- ・当会の保有するノウハウや、経営指導員の持つスキル等々のうち、不足する内容を研究

し、その補完目的で、本項を進めていく。

〔2〕次年度に向けた取組目標  
経営発達支援計画にて定量的目標は未設定